

宇都宮都市交通戦略 施策事業評価表 II

1. 施策の目的と目標

□目標とする交通環境	II. まちづくりに資する交通環境を整備する				
□目的	自動車依存型社会により拡散した都市となった宇都宮市を改善し、都心部を中心とした市街地の魅力を向上し、人・都市機能の集約に資する都市の交通基盤となる公共交通の充実・強化を目指す。				
□施策の体系	1) 市街化区域の公共交通空白（不便）地域を解消する 2) トランジット施設に、地域の拠点性を高める機能を整備する 3) 中心市街地の回遊性を高める		4) 自転車を快適に利用できる環境を整備する 5) 車や公共交通等が円滑に通行できる道路を整備する		
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)
	① 公共交通夜間人口カバー率（市街化区域）	75% (H20年度)	85.6% (H25年度)	100% (H30年度)	75.0% ⇒ 85.6%
	② 中心市街地通行量（休日）	46,987人 (H21年)	53,605人 (H25年)	49,300人 (H26年)	95.3% ⇒ 108.7%
	③ レンタサイクル利用者数	31,000人 (H21年度)	46,800人 (H25年度)	41,000人 (H27年度)	75.6% ⇒ 114.1%

2. 重点施策事業の進捗状況

(凡例) ◎:おおむね計画どおりに実施（実施中） ○:一部実施（実施中） △:検討中 -:未実施

施策事業名	事業主体	H24年度 実施状況	H25年度 当初予定	H25年度 実施状況	H25年度 評価	H26年度 当初予定
1-① 幹線バスの運行サービスの充実	バス事業者 宇都宮市	○運行頻度向上 →ベルモール線(関東自動車, 東野交通)	○運行頻度向上 →帝京大線(関東自動車)	○運行頻度向上 →帝京大線(関東自動車) →御幸ヶ原元町線(東野交通) ○情報提供の充実 →運賃経路検索システムの導入(関東自動車) ○LRTを見据えた路線再編 →バスネットワーク再編・利便化の検討	◎	○LRTを見据えた路線再編 →バスネットワーク再編・利便化の検討
1-② 循環バス(ミニバス)の運行	バス事業者 宇都宮市	○路線新設(社会実験) ・H25.1~中心市街地南循環線(東野交通), 平松本町線(関東自動車)○運行頻度向上 →戸祭台循環線(関東自動車) ○バスロケーションシステム導入 →都心循環線「きぶな」ほかミニバスの4路線(関東自動車)	○路線新設(社会実験) →中心市街地南循環線, 平松本町線: 自主運行に向けた運行計画改善, 利用促進策の実施	○路線新設(社会実験) →中心市街地南循環線, 平松本町線: 双方方向運行, ダイヤ変更, 買い物クーポン等の実施 ○バスロケーションシステム導入 →東峰町循環線ほかミニバス2路線(東野交通)	○	○路線新設(社会実験) →中心市街地南循環線, 平松本町線(継続)
3-② 都心部道路景観整備事業	宇都宮市	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝・道路詳細設計 →地元勉強会の実施(1回) →水道管の更新	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝に関わる支障物の移設 →地元勉強会の実施	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝に関わる支障物の移設 →地元勉強会の実施(4回)	◎	○ユニオン通り(市道3号線) →電線共同溝に関わる支障物の移設 →電線共同溝工事 →地元勉強会の実施
3-④ レンタサイクルの充実	宇都宮市	○駐輪場レンタサイクル →市営駐輪場7か所 →電動アシスト55台(稼働率25%) →普通自転車110台(稼働率92%) →体験イベントの実施 →利用42,049人 ○観光レンタサイクル →6宿泊施設1,573人 →宿泊施設におけるモデル事業の継続実施	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施 →利用状況を踏まえた配備台数の調整 ○観光レンタサイクル →実施施設の拡大 →宿泊施設による自主事業への移行	○駐輪場レンタサイクル →市営駐輪場7か所 →電動アシスト55台(稼働率34%) →普通自転車110台(稼働率98%) →各駐輪場での利用状況に合わせた配備台数の調整を随時実施 ○観光レンタサイクル →利用46,800人(見込) ○観光レンタサイクル →6宿泊施設, 1,400人利用見込 →宿泊施設による自主事業化に向けた検討	◎	○駐輪場レンタサイクル →レンタサイクルの実施 →イベント等の活用によるアシスト自転車を中心としたPR →利用状況を踏まえた配備台数の調整 ○観光レンタサイクル →宿泊施設による自主事業への移行 →実施施設の拡大(宿泊施設, 観光施設)

3-⑤ モビリティセンターの整備	宇都宮市	○宮サイクルステーション →有効性等の確認 →利便性向上を図るため、指定管理者導入手続の開始 →来館4,725人	○宮サイクルステーション →指定管理者による運営への移行	○宮サイクルステーション →H25.9指定管理者制度の導入 →指定管理者と連携したサービス充実(情報発信等) →来館4,684人(見込)	◎	・「宮サイクルステーション」の更なるサービス向上のため、指定管理者制度を導入し、指定管理者と連携したサービスの充実に取り組み、来館者数の増加につなげた。 ・引き続き自転車の更なる利用促進を図るため、「宮サイクルステーション」のサービス拡充に取り組むとともに、施設機能等の検証に取り組む必要がある。	○宮サイクルステーション →サービス拡充 →施設に求められる機能やサービス等の検証
4-③ 自転車道の整備	国 栃木県 宇都宮市	○自転車専用通行帯 →4路線(競輪場通り、今小路通りほか) ○自転車歩行者の通行の分離 →1路線(上三川街道) ○注意喚起表示 →2路線(オリオン通り、ユニオン通り) ○自転車通行位置の明示 →1路線(国道4号)	○自転車専用通行帯 →2路線(西原・宮野原通り、旧鹿沼街道) ○自転車歩行者の通行の分離 →1路線(いちょう通り) ○注意喚起表示 →1路線(宇都宮那須烏山線)	○自転車専用通行帯 →3路線(西原・宮の原通り、旧鹿沼街道、宇都宮向田線) ○自転車歩行者の通行の分離 →1路線(いちょう通り) ○整備延長 →16.9km	◎	・交通管理者と協議を行いながら、道路状況に応じた整備を着実に進めている。 ・自転車走行空間の整備は自転車・歩行者の安全向上に資することから、引き続き道路状況に応じた整備を推進するとともに、狭隘道路等における安全性の高い整備手法を確立する必要がある。また、ルール遵守等に向けた取組を推進する必要がある。	○自転車専用通行帯 →3路線(西原・宮の原通り、旧鹿沼街道、宇都宮向田線、大沢宇都宮線)

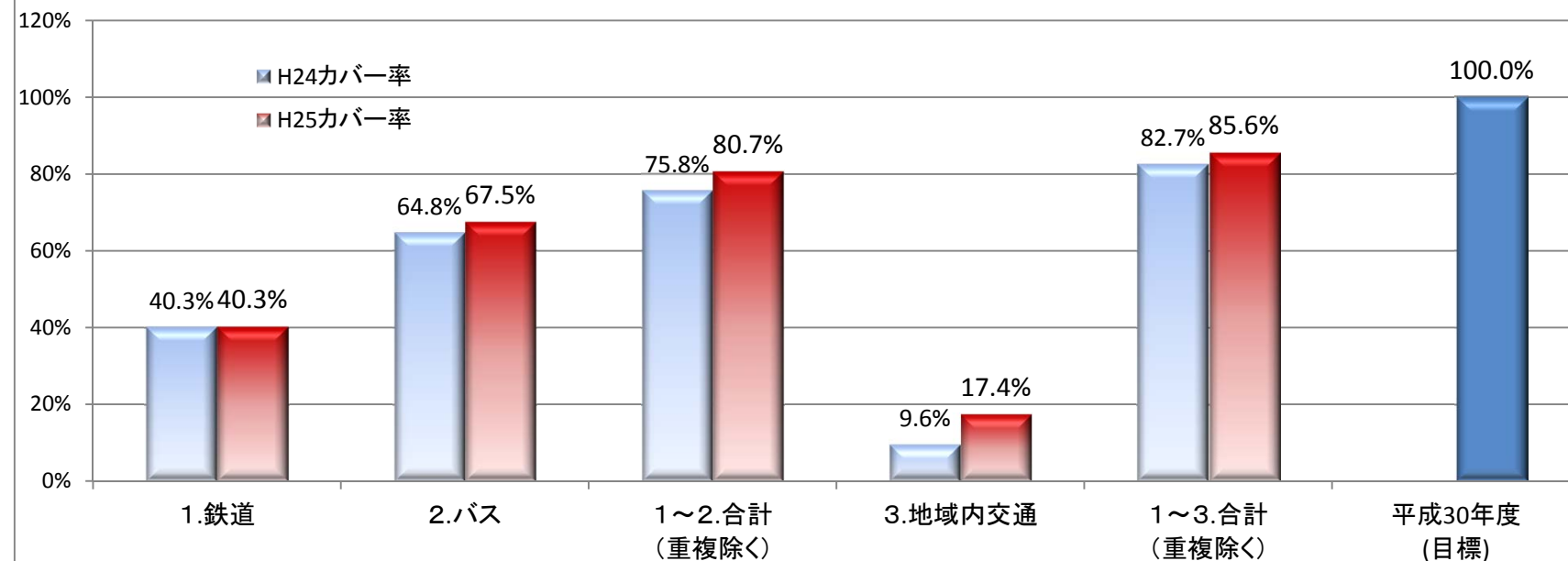
3. 施策の評価

・中心部及びその周辺における交通結節点でのレンタサイクルの充実や自転車走行空間の整備、バス路線の新設等により、中心市街地へのアクセス性の向上と中心市街地の通行量の増加に寄与している。
・市街化区域の公共交通夜間人口カバー率の向上に向け、引き続き公共交通の充実に取り組むとともに、特に中心市街地におけるレンタサイクルを含む自転車の利用増への対応や回遊の安全性、快適性の向上を図るため、道路景観整備事業や自転車走行空間の整備と併せ、レンタサイクルの適正配置や安全な自転車利用を促進する効果的な取組を検討する必要がある。

4. 取組の方針

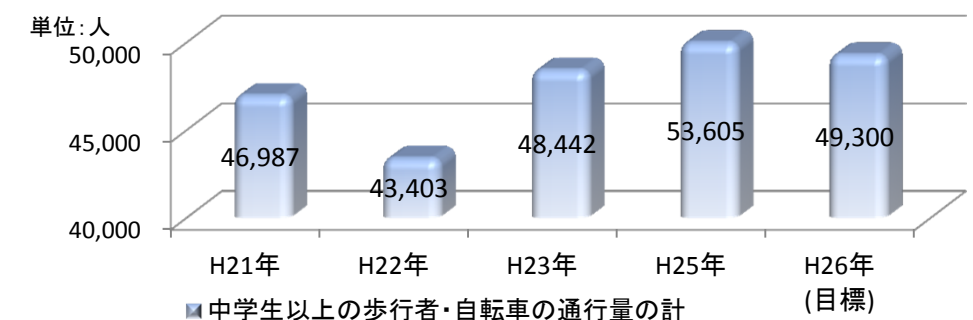
・人や都市機能が集約したまちづくり(ネットワーク型コンパクトシティの形成)に資する交通基盤の形成を図るため、都市拠点や地域拠点などを中心に、引き続きバス路線の更なる新設・拡充、利用環境整備などに取り組むとともに、都心部や周辺市街地においては、地域ニーズや公共交通事業者の意向を確認しながら、移動手段のあり方について検討する。
・また、中心市街地における回遊の安全性、快適性の向上を図るため、引き続き、歩行者空間や自転車走行空間の確保、レンタサイクルの充実等に取り組むとともに、ルール・マナー遵守に向けた取組についても実施する。

目標Ⅱ-① 公共交通夜間人口カバー率(市街化区域)



【利用圏域】1.鉄道:1,500m 2.地域内交通:当該自治会エリア全域 3.バス:バス停から半径250m
【算出方法】H17国勢調査(合併旧町含む)100m夜間人口メッシュの重心が利用圏域に含まれる場合、メッシュ内の全ての人口を利用圏域内人口

目標Ⅱ-② 中心市街地通行量(休日)



目標Ⅱ-③ レンタサイクル利用者数

